

時代を超え、国境を越える世界基準のモノと人。

ライトニング2012年 5月号増刊 [クラッチマガジン] Vol.2

ライトニング2012年 5月号増刊 (毎月22日発売) 3月22日発売 第19巻 第6号

# CLUTCH

Authentic, Borderless &  
Creative Production

¥680

Magazine



“誘惑するデニム”

True Blue Indigo Denim.

TRUE BLUE INDIGO



# DENIM

For men, the existence of denim is similar to a everlasting one-way love. Nothing is found if no try. So, men are eternally in love with denim.

誘惑する  
“デニム”

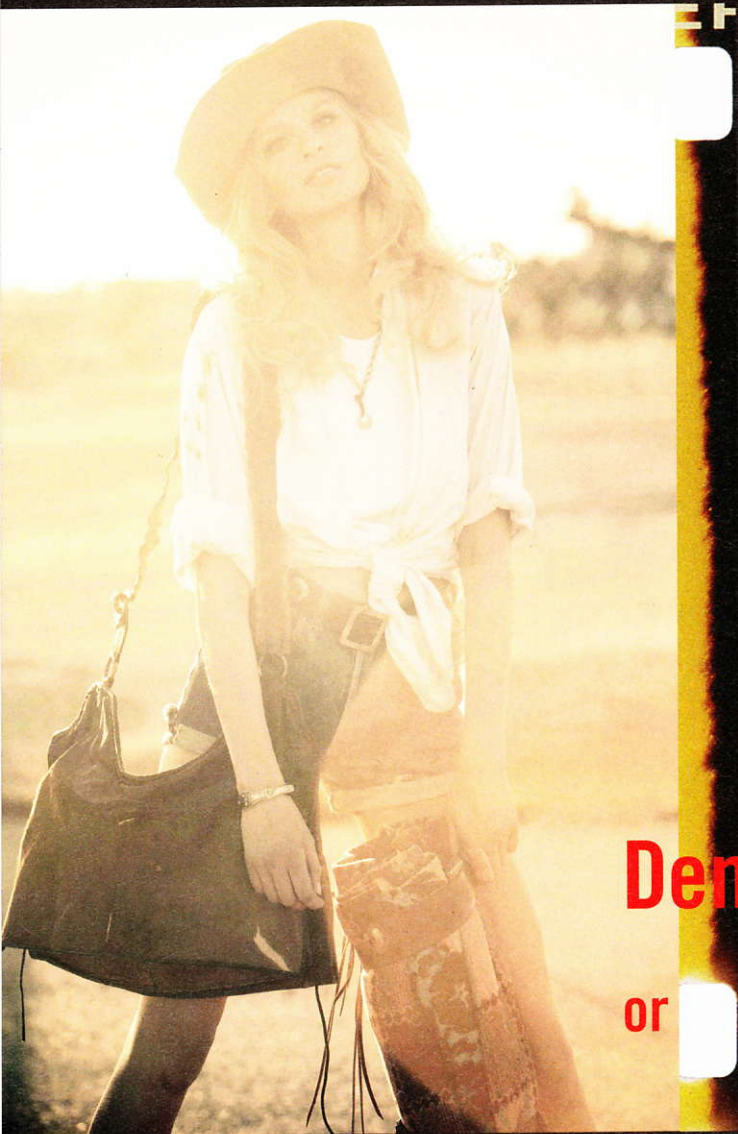
Photo by Tadashi Tawarayama Styling & Model by Christophe Loiron(MISTER FREEDOM)  
Hair & Make-up by MEG Model by Sviatlana(ENVY MODEL MANAGEMENT) Text by CLUTCH Magazine

TRUE BLUE INDIGO  
DENIM

It's hitchhike  
to

DENIMVILLE.





Denim

or

Beauty?

TRUE BLUE INDIGO

# DENIM



THE END...

デニムという存在は、オトコにとって  
永遠の片思いに似ているのかもしれない。  
試してみないと分からない。  
だから、ずっと好き。

## デニムと英国旧車、 そしてヒッチハイク……。

「他にはこんなアイデアはどう?」  
今号の表紙と巻頭の撮影コンセプト  
を説明すると、「MISTER FREEDOM」のオーナーであるクリストフ氏は微笑んで賛同してくれた。自らペンを取り、イメージを絵にしながら撮影シーンを考え、小道具の準備にまでアドバースとともに協力してくれたのだ。

そもそもの始まりは、今年の2月にロングビーチで開催されたヴィンテージの祭典『Inspiration』。世界中から集まったヴィンテージ好きのスタイルをチェックしていると、彼らのデニムの多くは「M」のステッチとオリジナルのパッチが特徴的な「MISTER FREEDOM」のものであったという話題からだった。なぜ、そんなにも人気なのか? それを少しでも知りたくて、ロサンゼルスにある彼のショップへ向かったのだ。

取材に訪れた我々を出迎えてくれたクリストフ氏と話をしていると、何度か目にした光景があった。手にしたモノ、たとえばライターやペン、これらで自身が穿いていたデニムをこすっているのだ。デニム好きに共通する無意識の習慣。

「生デニムから穿きこんでいって、自分仕様のエイジングを楽しむのが

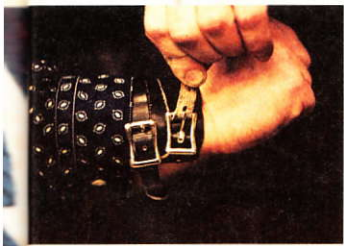


小道具となるデニムを真紅のタンクのボンネビルに積み込むクリストフ氏。撮影が終わると、颯爽とトライアングに跨る姿を見て、モデルのSviatlanaが「Cool!」とひと言

基本かな。あとは、全身デニムのコーディネートも好きだよ。ポイント  
は藍色の濃淡を活かしてあげること。  
要は、色の組み合わせなんだ。ちなみに僕はコントラストの強い組み合わせが好き」

せっかくだからと、自身が穿いているデニムを使ったコーディネート  
を披露してくれたクリストフ氏。それは、次のページで紹介しているの  
で話を戻すが、今回大いに盛り上がったのが撮影に関する打ち合わせだ  
った。全く異なるストーリー性のあるパターンを2つ撮影しようと思  
うと、そこからの作りこみがすばらしかった。スタイリングに関する時  
代設定は、もちろん自身が着用する分だけでなく、レディスのスタイリ  
ングに関しても。机上で作ったイメージを具現化するために、小道具  
にも抜かりはない。気になることはすぐにウェブで検索し、あつとい  
う間にスタイリングを完成させ、ヒッチハイクで使うダンボールのプレ  
ートまで、手描きで準備してくれたのだ。

ヴィンテージウェアやデニムに関する造詣の深さもさることながら、何事にも時代考証やディテールへの作りこみは怠らない。本質を見極めながら、取り組む姿勢を垣間見ることができた時間だった。これが、ヴィンテージファンに支持される理由といってもいいだろう。



「Strongman cuff」と名づけられた新作のプレスレット。素材はカウライツェ、ブラックとブラウンの2カラー展開



カッコいいと思うスタイリングをした人は皆、このステッチとパッチがデザインされたデニムを穿いていたとか!?

TRUE BLUE INDIGO

# DENIM

It is introduction about the style by the denim which Mr.Christophe has used regularly. The combination which thought color as important is also a highlight.

クリストフ氏が愛用しているデニムによる  
スタイリングをご紹介します。  
カラーを重視した組み合わせも見所だ。

Photo by Tadashi Tawarayama Text by GUTCH Magazine  
写真：灰山忠 文：編集部

01

1年半ほど穿きこんで、ほどよいエイジングとなったデニムは、35種類あるデッドストックの生地から限定で仕上げた「Californian」というモデルで、こちらはタイプI。店で藍染したというヘンリーシャツのブルーで春の軽やかさを演出。リネン×コットンのチャパラル・ブラウスは、今季のオススメ

# Denim Style

by MISTER FREEDOM



デニムとインディエイトの話  
を終える。さあ撮影に行  
こう！ いつもとは異  
なるロケ地、3ヶ月スツ  
プも楽しんだ。そして入れた



03

ナチュラルホワイトのデニムは、同じく「Californian」というモデルで、こちらはタイプII。1カ月ほど穿いたという状態だ。シャツはシュガーケーンとの新作で「Calico Trade Shirt」。カリコをモチーフとしたワークシャツで、糸タンはカドストックのもの。胸ポケットのデザインが個性的



02

6カ月目をむかえたというデニムは「Californian」のインディゴ×ブラックモデル。デニムの微妙な色の組み合わせに、コンチョベルトと新作プレスレットのブラウンが映える。シャツはシュガーケーンとのコラボによる2011春夏の「アバチ」コレクションのもので、カラーのシェイプからバリエーションの通りの名前である「Hirondelle」と名づけられている。

# Denim on L